

令和4年度 第1回福祉サービス運営委員会報告書

- 1 開催日時 令和4年1月15日(火) 13時57分～15時25分
- 2 会場 大分県福祉会事務局3階会議室
- 3 出席者 (第三者委員) 仲元研二氏 岡村邦彦氏 吉田 隆氏 溝邊博見氏
(利用者家族委員) 梶 容子氏 村田暁美氏 後藤小百合氏
(事業所委員) 安東一夫施設長 関谷眞佐子施設長 安藤 覚施設長 堤 郁夫施設長
阿南奈緒美施設長
(法人代表) 有松一郎理事長

4 内 容

令和4年度は委員の改選期に当たり、新委員12名に、有松理事長より委嘱状の交付を行った。委員長には、第三者委員の仲元研二氏が全会一致で選出された。有松理事長、仲元委員長の挨拶後、委員長の進行で事務局及び各施設の現状と苦情や要望等の状況報告及び協議

1 本部事務局

① 重点的取組、法人の現状について説明

法人の中期事業計画を着実に実現するため、7項目の重点的取り組み項目を掲げている

- ・時代やニーズの変化に応じた業務・サービスの再構築を図る取り組みを行っている
- ・法人パンフレット作成、ホームページの再構築を行う等して魅力ある情報発信に取り組む
- ・法人創立70周年の記念事業に取組み、今後の法人発展につながるような事業を考える
- ・法人全体で、コロナウイルス感染予防対策に努めているが、利用児者及び職員の多くに感染者が出て感染拡大防止の対応に追われた。インフルエンザの感染防止も含めて、引き続き対策の強化を図る

② 苦情及びヒヤリハット・事故報告～なし

③ その他～なし

2 別府厚生館

① 重点的取組・施設の現状について説明

- ・定員16世帯(暫定12世帯)、8世帯30名が入所
- ・安心安全、母子を分離しない支援、家族の再統合や再構築する支援が求められている状況にある
- ・入所の傾向は、県外からのDVによる避難が多数を占め、利用者の安全を最優先した支援が求められている

② 苦情等について

- ・意見箱への投書 なし
- ・口頭によるもの

③ ヒヤリハット、事故報告

- ・0歳児が、自転車から転落し頭部を打撲、はさみで顔にケガ、鼻づまり改善薬を口に含ませ嘔吐する(病院受診、経過観察)
- ・3歳児のお尻にガラス片が刺さる

④ その他

- ・0歳児RS感染症で入院
- ・コロナ感染 利用者1名、職員2名

3 うえの園・清明あけぼの学園

① 重点的取組・施設の現状について説明

- ・高齢化、障害の重度化に伴う利用者支援の充実、小規模施設の特徴を活かした支援の充実、質の高いサービスの提供、施設機能強化、働きやすい職場づくりに取り組む。
- ・うえの園 施設入所支援：20名(定員20名) 生活介護：29名うち通所利用9名(定員20名)
- ・日中一時支援・短期入所定員2名 感染症対策の为一時的に受け入れを中止、緊急時は要相談
- ・相談支援事業所：特定相談支援～計画作成並びにモニタリング数160件、
障害児相談支援～計画作成並びにモニタリング数308件
- ・清明あけぼの学園 施設入所 10名(定員10名)
日中一時支援、短期入所 定員2名 感染症対策の为一時的に受け入れ中止、緊急時は要相談

② 苦情・要望

- ・意見箱 2件
- ・要望 買い物等2件(サビ管対応)

- ・直接 なし
- ③ ヒヤリハット（うへの園 1件、清明あけぼの学園 3件）
 - ・利用者単独移動 3Fから1Fへ ・薬の飲み忘れ
- ④ 事故報告（うへの園 10件、清明あけぼの学園 5件）
 - ・う/不適切な支援～4月15日新任看護師が20代女性利用者の歯科受診時に 命令口調「（車から）降りなさい」「マスクしなさい」や腕を強く引っ張る行為があった（大分市障がい者虐待防止センターにおいて見）→行動障害のある利用者の受診に初めて一人で付添い、歯科と虐待防止センターの入り口を間違える。OJT研修中（権利擁護、行動障害のある利用者への支援等）→ 家族への報告と謝罪を実施、各種研修や支援会議にて対応の検討周知を実施→大分市障害福祉課へ改善計画書を提出、12月中旬に改善状況把握のため来園予定
 - ・う/無届外出2件～施錠できていない玄関等から出る → 玄関等では、施錠の確認をして離れることの徹底 集会室出入り口のカギ付替え
 - ・う/利用者間の他害4件～ 廊下等での接触 → 廊下にて見守り配置の重要性について再確認
 - ・清あ/幼児ベッドから落下～ 服薬を医務室にて行っていたが、畳の部屋（自室）に変更
 - ・清あ/女児入浴中脱衣室の戸を男性職員がロックせず開ける（浴室2にて男児の入浴支援のため浴室3に置いている長靴を取るため）→すぐに外に出て、その後速やかに女性職員が様子を聞く等対応、男性職員が謝罪、家族への報告と謝罪を実施
 - ・その他～う/ 服薬1件 自傷等によるけが2件 器物破損
清あ/服薬3件（チェック体制の徹底）
- ⑤ その他
 - ・虐待防止委員会～4月15日不適切な支援発見を受けて改善計画検討 全体研修や各支援会議において支援の際の留意事項を再度検討周知
 - ・ハラスメント防止委員会～特記事項なし
 - ・感染症対策委員会～新型コロナウイルス感染防止について感染拡大状況に応じた対応を2ヶ月に1回実施し、取りまとめと周知を図った
 - ・新型コロナウイルスワクチン接種の4回目を嘱託医の協力のもと希望者には順次実施
 - ・職員用の抗原検査簡易キットを整備
 - ・感染症対策における特別休暇取得 12名延べ41日（4/1～10/31まで）
 - ・感染者：利用者 感染無し 職員3名（いずれも家族内感染）
 - ・リスク管理委員会～リスク回避のため対策等は、必要に応じて職員会議にて周知した

4 森の木

- ① 重点的取組と現状について説明
 - ・社会的養育推進計画の推進、地域分散化の推進、働きやすく、安全安心な職場環境の整備、こどものアドボカシーへの取組を実施
 - ・本体施設 25名 地域小規模 9名
 - ・被虐待児童入所率（76.5%）発達障害（70.6%）ひとり親家庭（70.6%）
 - ・子育て支援事業（ショートステイ等100日、一時保護36人延684日）ゆずりは・HOPE相談等2244件
- ② 苦情等
 - ・聴き耳頭巾意見箱への投書（10件）
 - ・ユニット子ども間のトラブルに対する不満 → 事実関係を確認し、双方の言い分聴き取り調整
 - ・家に帰りたい、家族と過ごしたい
- ③ ヒヤリハット及び事故報告
 - (1) ヒヤリハット
 - ・浴槽で滑り壁に頭をぶつける。
 - ・テンションが高くなった児童とのトラブルで、押されて倒れ後頭部を打つ
 - ・アレルギー薬を服用せずごみ箱に捨てる
 - ・幼児が落ちていたセロハンテープの切れ端を咀嚼
 ※ヒヤリハット事案については、職員会議で全職員に周知し、注意喚起を行っている
 - (2) 事故報告
 - ・5/30 「ゆずりは」駐車場にて公用車をバックで駐車しようとして、後方のブロック塀にぶつける。
 - ・6 / 3 新川の商業施設から県道（3車線）に出ようとした際、第1車線に駐車していたトラックが死角になった状況で、第2車線にはみ出し、右からの直進者と接触。（私有車）
 - ・6/22 児童を学校に送るため、職員駐車場から正門に向け左折した際に、左側面後部を電柱に接触させる。急な用務と不慣れな大型ワゴン車（公用）であったこと、ガソリンの目盛りに気を

取られたことが原因。

- ・ 8 / 9 「ゆずりは」前の道路で、左側に停車中の宅配便トラックを避けて走行中、前方からの車に気を取られトラックのミラーに気付かず接触。公用車の左側面前方～後方にかけてキズが入る。

※職員会議、朝の引継時などあらゆる機会に声掛けを行うとともに、外部講師による研修を実施した。

④その他

- ・ 毎月、感染症対策委員会を開催。新型コロナウイルス感染症対策等を協議し、感染予防に努めた。
- ・ 今年度これまでに、児童5名、職員9名が感染したが感染拡大は最小限に止めた。

5 滝尾保育園

① 重点的取組・現状について説明

- ・ 保育環境を充実させることで保育の質の向上を図っている。職員研修の充実、働きやすい職場づくり、公益的事業の充実を図る
- ・ 園児数名 216（定員 200 名）

② 苦情・要望等

(1) 保護者から

お迎え時、職員の対応が悪く、時間がかかる（4月保護者会での意見）

（ア）濃厚接触者（園児）の自宅待機期間の扱い（園からのお願い）について（9月電話）

(2) 一般

保育園の駐車場から 左右確認をせず、道路に出た車があった、危険。（電話）

4 事故(病院受診)報告

- (1) 4/19(火) 2歳男児 亀に指先をかまれる(水槽の中)
- (2) 5/18(水) 5歳男児 左あご下損傷(第二園庭固定遊具にぶつかる)
- (3) 5/23(月) 2歳男児 下唇左損傷(クッションから転倒、棚にぶつかる)
- (4) 7/26(火) 3歳女児 左肘脱臼(午睡中に腕が「グリッ」となった)
- (5) 10/24(月) 1歳男児 右手小指爪剥離(キックスケートから転倒)

※病院受診の有無を問わず、子どもが怪我をした場合、発生状況や対応の経緯、発生要因の分析、今後の対策を様式に記述し、全職員に回覧する。

※毎月、リスクマネジメント委員会を開催し、職員の安全意識を高める。

6 明野しいのみ保育園

① 重点的取組・現状について説明

- ・ 子どもの尊厳を守り、子ども主体の保育を進める。保育の ICT 化を行い業務の軽減に取り組んでいる。
- ・ 園児数 149 名（定員 152 名）

② 要望及び苦情

・ 週末持ち帰るはずの布団袋が園にないと言われ、後日他の保育士が「ありますよ」との返答に 不信感を持った。クラス内の連携が取れていなかったことを詫げるが、最初に対応した保育士に対し、対応が悪いと憤慨。

・ 発熱時の迎えの要請が頻繁であることと保育者の対応についての不満を市役所に届ける。何度も熱を測り、その時間まで記録している。帰ったら熱のないこともある。言い方も気に入らない。→基本 38℃以上はお迎えをお願いしていること、状況によっては個別の対応もあると伝えたとこ了解してもらえらるが、慣らし保育が保護者の意向にそっていなかったことからの不満が蓄積されていた。保護者の思いを十分お聞きし、園の方針を伝えた。また、該当の保育士には、今後の対応に十分気を付けるよう指導する。その後は子どもさんの健康状態も安定したこともあり関係修復ができた。

・ 下痢くらいでお迎えを要請される、2回出たらお迎えの根拠は何を知りたいと市役所に電話。→入園の際、下痢の症状がある場合は、感染性の場合や、脱水などの心配があるので登園出来ないことは伝えており、現在はコロナの症状である場合もありえることから安全のため家庭保育をお願いしていると理解を求める。子どもさんが抗生物質を服用しており、軟便であることは理解していたが、実際は軟便とはいいいがたい状況だった。

◎下痢症状の子どもさんの対応は苦慮している。

③ ヒヤリハット及び事故報告

ヒヤリハット～毎月リスク委員会で集計、職員に周知。4月～10月で58件

- ・ 公園で鼻に石を入れる・アレルギー除去食の記載漏れ（確認ボードに）・りんごを0歳児に加熱せずに提供・2歳児が戸外から園内に入った際、職員が見ていぬ間に2階に上がってしまった
- ・ 嘔吐後の処理で新人職員が手順がわかっていなかった。嘔みつき・ハチなど

事故報告

- ・4歳男児)廊下で転倒し近くにあった長椅子で顔を打つ。左頬内側を噛み歯科受診、様子観察。
 - ・2歳男児)園庭スロープ上の踊り場で遊んでいて転倒し、階段で右目横をぶつける。眼窩吹き抜け骨折2週間様子観察しそのまま良くなった。
 - ・1歳男児)園庭でバランスを崩し、固定遊具で顎を打ち口内出血。前歯が2ミリ程度欠け、歯科受診し欠けた部分を整える治療をする。
 - ・3歳女児)保育室で転倒、左目下を本棚で打つ。病院受診し異常なし。
 - ・4歳男児)隣接公園の木にしがみつ、ジャンプして唇を木肌で切る。整形外科受診し消毒。
 - ・4歳女児)隣接公園で走っていて砂場のふちの段差で左足をひねる。左腓骨遠位端断裂骨折。
- 5 病気・感染症等の状況
- ・新型コロナウイルスによる学級閉鎖 5月2クラス 8月1クラス
 - ・RSウイルス、アデノウイルス、感染性胃腸炎、突発性発疹、手足口病、プール熱、ヒトメタニューモウイルスが散見された。
- 6 その他
- 新型コロナウイルス感染者 園児 63名 職員 16名

協議

- 利用者家族委員より
 - ・自身が運営しているグループホーム及び生活介護で我が子の育成に取り組んできたが、2次障がいを起こす状況になっていた。うへの園見学時、利用者の生き活きとした表情や姿何かよいものがあると感じた。施設入所して家族も救われ、自身の施設の立て直しのため支援のあり方を参考にさせてもらっている。
 - ・些細な課題についても、迅速に対応していただいていると感じています。送迎車の一方通行ルールが守られない方がいるのが怖いと感じる。駐車場から保育室の園児の移動に臨機応変の対応してもらっているが、人によって感じ方が違い難しいと感じる。(実際の保育や対応をしっかりみつめて対応していきたい)
 - ・コロナの影響で運動会の保護者競技が制限されている状況である。親子競技の復活を希望。(ウイズコロナの中でできることをやっていきたい。)
 - ・長く保育園を利用しているが、不安もなく感謝している。親の育児方針を理解して尊重した対応をしていただいている。コロナ禍で母親同士の情報交換も希薄な状況であるので、母親と職員との情報交換ができる場があるとよい。(集団の中で子育てをしているので、しっかりと保護者をお願いしたいことと、保護者のおかれている立場を理解した対応をしていきたい。送迎バスでの園児置き去り事件に関連して、散歩等での園児の人数確認や保護者から連絡がなく欠席しているケースについて確認を徹底することをしている)
- 第三者委員より
 - ・別府厚生館で毎月行っている相談日に状況確認しているが、職員の対応について問題はありませんでした。地域住民の状況把握にアンテナを高くしていきたい。
 - ・聞き耳頭巾の相談で、同年齢のこども間のトラブルで死にたいとの投書もあり、ユニットの職員には特にきめ細かい対応をお願いしている。保育園のバス置き去り事件が報道されているが、なぜ起きるのか考えさせられる。(聞き耳頭巾はこどもの気持ちを職員以外の方に聴いてもらえる良い機会である、自治会や外部に意見表明できることを伝えていきたい)
- 岡村委員の総評
 - ・目標に対して施策の取り組みが各施設ともできており、非常に良いことである。職員一人ひとりが心をつとめてモチベーションを高めて目標に取り組んでいくためには、より高い目指すべき理念を掲げて、それに向かって皆さんが共感し、力を合わせて努力していくことによって更なるサービスの充実が図られる。
 - ・パワハラの問題の根底には、パワハラを行っている人も多くのプレッシャーを抱えていて組織的な問題として噴出していると考えられるので、そのような視点からも職員のモチベーションを高めていくことを考えてほしい。
 - ・利用者をお預かりしてサービスを提供する事業所においてはリスクに対する感度を高め、リスクがどこに潜んでそれをどのように解決していくのか、リスクアセスメントを行い改善していくことが必要である。
- 理事長あいさつ
 - 委員の皆様から勇気がわく言葉を頂いた。働き方改革から始まり働きやすさや楽しくやりがいがあるところであると職員に伝えていきたい。今年は70周年、これを契機にして現場での発想を経営に反映し、トライアンドエラーでより良い方向を目指していきたいとのあいさつで会を終了した。